

河合芳尚の読図コーナー

連載第1回

執筆者の紹介

河合芳尚氏は、豊川山岳会のメンバーで、国立登山研修所の安全登山普及指導者中央研修会の読図講師を務めています。コンパスの使い方や地図読みの技術を指導し、登山者の技術向上と安全登山の普及に貢献しています。

道迷いと地図アプリ

日本の登山人口は2009年の約1230万人をピークに減少を続け、2023年には約480万人にまで減りました。ところが山岳遭難は約750人だった1990年ごろを境に右肩上がりに増加し、2023年には過去最高の3568人を記録し、「道迷い」遭難者は、2018年以降、ほぼ横ばいの状態が続いています。

一方で「道迷い」の構成比は2020年の44・0%をピークに減少傾向を示し、2023年は33・7%に低下しています。つまり、「道迷い」の構成比は減少しているにもかかわらず、遭難件数は横ばいで減少していません。地図アプリが登山者の多くに利用されているのに、遭難件数が減少していないのはなぜだろう？と考えてしまいました。この原因は、基本的な読図技術の不足にあり、安全登山に対し安易な気分の登山者が増加しているのではないかと考えています。

今回、愛知岳連ニュース担当の方から声を掛けていただき連載することになりました。「地図読み」について興味

を持つていただけるように掲載していくつもりです。よろしくお願いいたします。初回は、「YAMAP」VS「ヤマレコ」です。

「YAMAP」VS「ヤマレコ」

2024年12月に「YAMAP」は足あと機能を追加しました。この足あと機能は「ヤマレコ」唯一のものでした。例えば、国土地理院地形図の等高線は正確に書かれていますが、登山道については、正確ではありません。廃道になつていたり、そもそも間違つていたりします。

足あと機能は、登山者の歩いた軌跡を点で示すもので、点の集まりが線となり、登山道になります。したがって、

点の集まりが無い登山道は人が歩いていないので注意が必要です。

「YAMAP」と「ヤマレコ」には、それぞれの特徴があります。

「YAMAP」は①ダウンロード数460万人。②従業員数97名。③ダウンロード件数月2件まで。④ルート逸脱機能有料。⑤平均ペースの閲覧有料。⑥登山計画はスマホのみ作成可能。⑦登山ルートは用意されている登山道のみ設定可能。

「ヤマレコ」は①130万人。②5名。③月2件（削除すれば無制限）。④ルート逸脱機能無料。⑤無料。⑥スマホ、パソコン両方可。⑦パリエーションルートも自分で設定可能、と言う違いがあります。

「ヤマレコ」は、ユーザーの利便性を考えた設計が特徴的で、YouTubeチャンネル「ヤマレコ社長の絶対遭難させないチャンネル」では、安全登山を積極的に呼びかけています。登山者を遭難させたくないという姿勢を強く感

じます。地図アプリで現在位置を把握し、コンパスを使えば遭難件数は減少するはずですが、現実はどうなっていますか。

オリエンテーリングの競技ではコンパスが必須ですが、一方で登山者の中にはコンパスを使えない人が多いのが現状です。

今回は「コンパスと地図の整置」についてお話ししたいと思います。



冬山装備のメンテナンス工房 HAREYAMA

なにより「安全」のためです。命を守ってくれる相棒を大切に。

冬山装備のメンテナンス アイゼン・ピッケル研ぎます

株式会社ウォームリンク
〒470-0135 愛知県日進市岩崎台 1-130
Tel. 0561-72-2805



hareyama.net